



学校と家庭が連携して、道徳教育を推進していきたいと思えます。
学校で行った道徳の授業についてお知らせいたします。家庭で話し合っしてほしいことをもとに、お子様といろいろな話をして下さい。
また、保護者の皆様の経験にもとづく話もできればとてもよいと思えます。
よろしくお願いいたします。

★資料名

ともだちやもんな、ぼくら

★今回の道徳の授業のねらい

友達を思うことの大切さに気づき、友達と仲良くし、助け合っいていこうとする判断力を育てます。

★お話のあらすじと内容

ぼくとマナブとヒデトシ。仲良しの男の子3人の話です。3人は、近所のかみなりじいさんの家の木に登って、カブトムシをとろうとします。かみなりじいさんに怒鳴られて、あわてて逃げ出しますが、ヒデトシは転んでつかまってしまいます。ぼくとマナブは、いろいろ考えたあげく、「ヒデトシをたすけにいこうか。」「ともだちやもんな、ぼくら。」と決心します。かみなりじいさんに謝ったぼくとマナブは、「おまえたち、よくもどってきた。」と許してもらい、3人で仲良く帰るのでした。ヒデトシのことを考えるぼくとマナブの気持ちを追っていく中で、友達を思う心を育てる教材です。

★子どもたちの授業のふりかえり

○友達となかよく助け合っいていくためには、どんなことが大切だと思えますか。

- ・自分から「遊ぼう。」と声をかける。
- ・喧嘩したら、自分の悪いところも認める。素直に謝る。
- ・困っている友達がいたら、進んで助けてあげる。友達を犠牲にしてはいけない。
- ・友達が喜んでくれることをしたい。
- ・助けてもらうだけでなく、助け合っいたい。

★家庭で話し合っしてほしいこと

低学年の子供は、どうしても自分中心の行動をとってしまう傾向にあります。しかし友達の大切さや、感謝に気づくこともできるようになる時期でもあります。特に身近にいる友達と仲良く活動し、助け合っることが大切です。

お子さんに、具体的に友達のためにとった行動で、友情が深まったことや友達が増えたことなどをたずねていただき、ご家庭でも信頼関係や友情をはぐくむことの大切さを話題にしていだきたいと思えます。